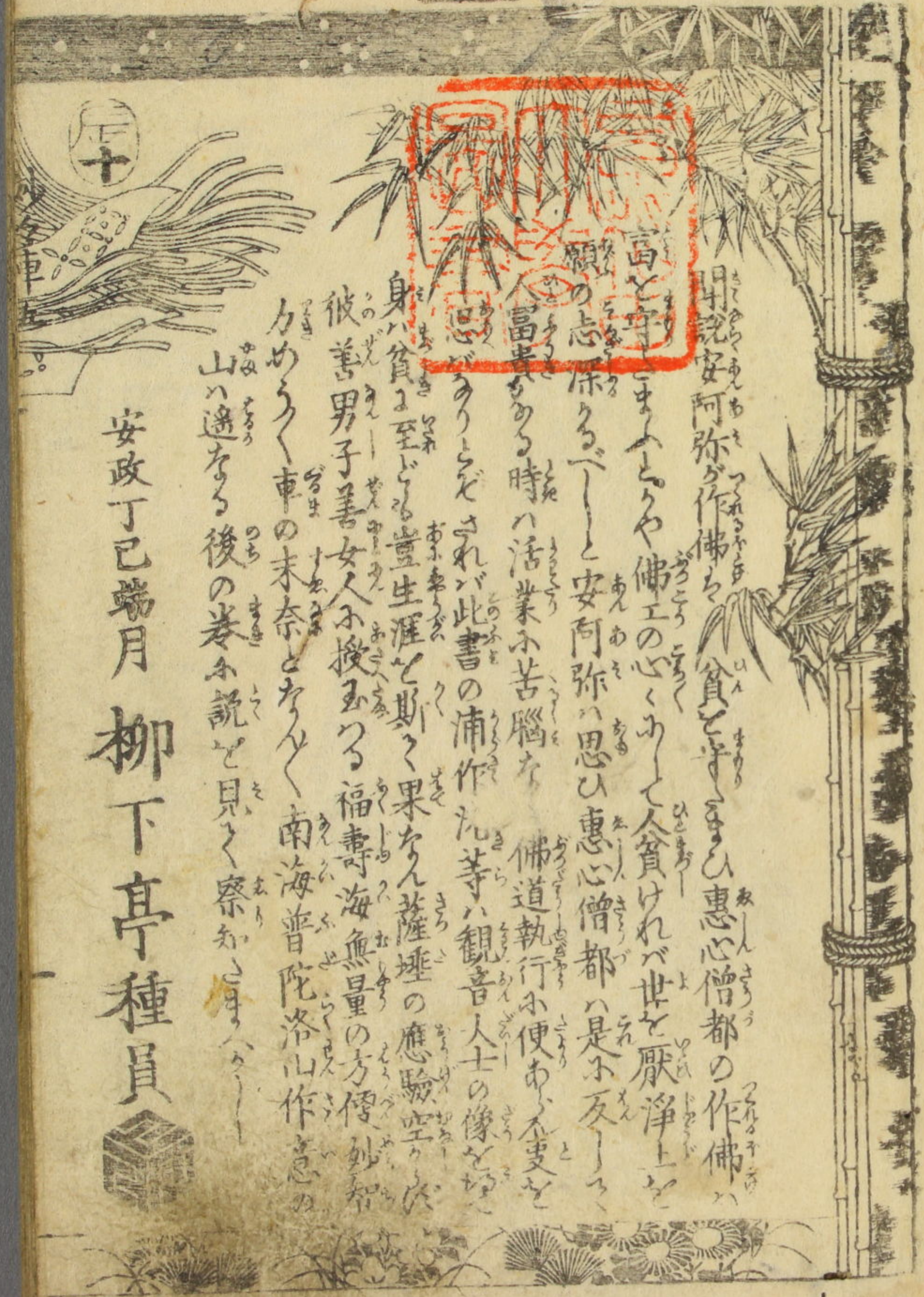


~ 13
3750
9



明 13
號 3750
卷 9

妙々車
第五集上冊
柳下亭著述
梅蝶樓圖畫
紅英堂鐫主



開説安阿弥が作佛を
富と守るまよとくや佛工の心くありて人貧けれバ世を厭浄上を
願の志深くるべしと安阿弥の思ひ恵心僧都は是も及し
富貴ある時の活業不苦惱を 佛道執行小便あふ不更を
身ハ貧乏至ども豈生涯を斯く果をん薩埵の應驗空か
彼善男子善女人不授玉つる福壽海無量の方便妙智
カめらるく車の未奈とをく南海普陀洛山作意の
山の邊なる後の巻小説を見く察知し

安政丁巳端月 柳下亭種員





若れ

初

中

望月
千之

愛
涼堂の
主願西

西の風

少

若れ

俳諧名取川

延宝六年刊行



月岡の
處女小雪





寒の郷相撲
布子山綿

曲の國

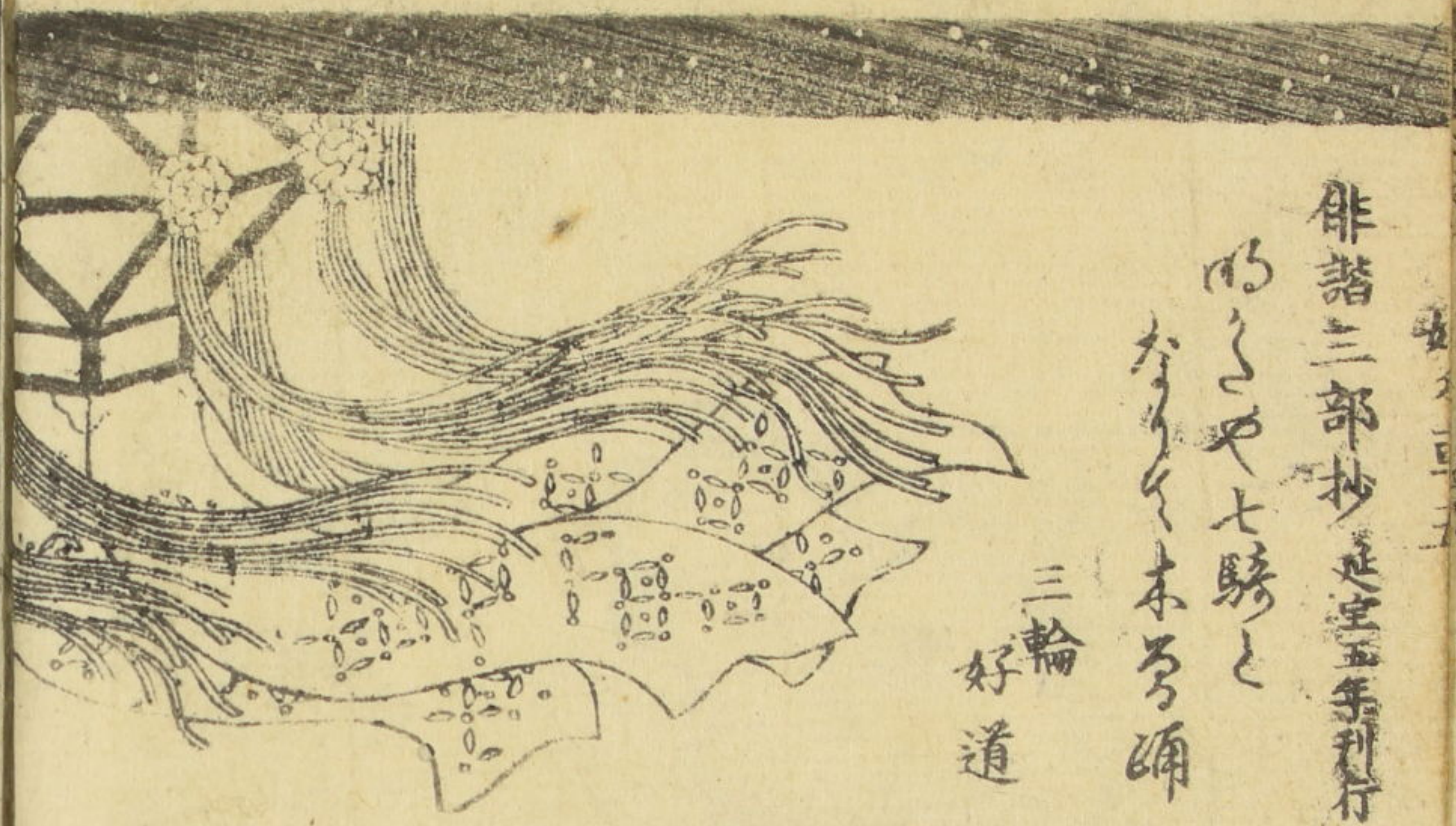


農夫の歌
六

賤門田



花垣重三郎



俳諧三部抄 延享五年刊行

のりや七騎と
なやぐ木乃誦

三輪
好道



花垣重三郎

花垣重三郎
早稲助

Vertical Japanese text at the top of the left page, likely a title or introductory text.



Vertical Japanese text at the bottom of the left page, likely a caption or commentary.

Vertical Japanese text at the top of the right page, likely a title or introductory text.



Vertical Japanese text at the bottom of the right page, likely a caption or commentary.

亦甚堅無用

本父曰